

県立大生7人が企画・運営

農業にかける学生たちの熱き語り合いに耳を傾けませんか。農業を学ぶ全国の大学生が集う「第1回全国農業系学生フォーラム」が6日、秋田市の県立大学秋田キャンパスで開かれる。「自分たちの考えを社会に発信する場を」と、企画から運営までのほとんどを県立大の7人の学生たちが担当。リーダーの植田行則さん(2年)は「互いに刺激を与え合い、終わった時にみんなが『参加して良かった』と実感できるようにフォーラムにしたい」と意気込む。(一條裕二)

フォーラムには県立大のほか、北海道大や東京農大、京都大など6大学の学生13人も参加する。第1部では、大潟村のコメ産直会社「農友」の川渕文雄さんと、県立大の露崎浩准教授(畑作物学)が講演。第2部では、学生が「高齢化の進む農村のために、私たちに何ができるのか」などをテーマに議論する。

学生集い 農業語る



フォーラム開催に意気込む県立大の学生ら(県立大大潟キャンパスで)

全国から6大学 6日にフォーラム

フォーラムは、学生の行動力や創造力を育む県立大の学生支援プログラム「薫風・満天フィールド交流塾」の一環。今年2月には、全国9大学の学生28人を招き、秋田ならではの雪遊びをしながら交流を図るイベント「雪まつり」を行った。

しかし、実際の運営は教職員に頼る場面が多かった。そ

の反省から、企画段階から学生が主体となり、農業を学ぶ共通項を持った学生たちがメッセージを発信する場を開こうと、6月、新たに1〜3年生の7人チームを結成した。

7人は農業系サークルのある全国の大学をリストアップして、思いをつづった文書で参加を呼びかけ、地元農家を訪ね歩いて、フォーラム前日の学生の農業体験への協力や講演をお願いした。さらに、

高校生にも農業の素晴らしさを知ってほしいと、地元の高校を回り、フォーラムへの参加を呼びかけ、ポスターの掲示を依頼した。

交流塾の塾長を務める露崎准教授は「準備を進める中で、学生の様々な能力が伸びていることを実感する」と学生の成長に目を細めている。

フォーラムの第1部は午前10時から、第2部は午後1時半から。参加は無料。